

宮中取水ダム試験放流に伴う検証の内容

平成23年度（2年目）調査等計画（案）

※現地調査は東日本旅客鉄道(株)、解析・評価は北陸地方整備局信濃川河川事務所を基本

○：実施 △：場合によっては実施

項目	調査内容	調査の目的等	平成22年度 (1年目)	平成23年度（2年目）	
					備考
河川形態	航空写真判読	各流量の瀬、淵等河川形態の状況を確認する。	○	△	現地調査は、十日町橋、栄橋、川井大橋で実施。航空写真判読は、宮中取水ダム流入量が約3,000m ³ /sを超えた場合に実施。
河川水温	水温実測	夏季の流量における水温を確認する。	○	○	
付着藻類	現地調査	夏季の流量における付着藻類の異常繁茂の状況を把握する。	○	○	
底生動物	現地調査	底生動物の生息状況を把握する。	○	○	
魚類の生息及び遡上・降下	生息・生育状況調査	魚類の生息・生育状況を把握する。	○	○	
	生息場の状況調査 (濁筋)	魚類の移動のために必要な水理条件（水深）が確保されているかどうかを確認する。	○	△	河川形態と合わせて実施（宮中取水ダム流入量が約3,000m ³ /sを超えた場合）
	アユ生息・生育状況調査	アユの生息・生育状況を把握する。	○	○	
	サケ遡上調査	サケの遡上数を把握する。	○	○	
河川景観	写真撮影	各流量の河川景観を把握する。	○	△	河川形態と合わせて実施（宮中取水ダム流入量が約3,000m ³ /sを超えた場合）
河川水質	水質調査	各流量の河川水質を把握する。	○	○	
河川利用	河川利用状況	釣りやその他の河川の利用実態を把握する。	○	○	
	釣場適性把握	釣り場として利用可能な範囲を把握する。	○	○	
	舟下り適性把握	河川利用の一形態として舟下り（ラフティング等）の適性を把握する。	○	○	